

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	有田町立有田中部小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>■全体的な評価結果として、昨年同様に「概ね達成」が多く一定の成果は上げられている。ただし、保護者や児童、職員に質問したアンケートでも、「概ねよい」という趣旨の回答が多いので、保護者や児童がどういったニーズを持っているのかもきちんと把握しながら、効果的でタイムリーな指導ができるようにしていきたい。さらに、教育方針等、保護者に十分に伝える手段を工夫する必要がある。</p> <p>■学力向上については、学年間、学級間で指導に差が見られる。特に、思考力・表現力については、他の領域に比べて低い傾向が続いているので、条件に見合う文章を書く練習をするなどの具体的な対策を各学年ごとに立て、校内研究を中心に実践化を図っていくことが重要である。</p>
2 学校教育目標	自ら気付き、人との関わりの中で自分らしさを発揮しながら課題解決に向かう児童の育成
3 本年度の重点目標	①教職員の資質を高め、児童の学力向上を図る。 ②児童へのきめ細かな支援を行い、心の教育を充実する。 ③望ましい生活習慣を身に付けさせ、心身の健康を育む。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合が90%以上になることを目指す。	・校内研修又は職員会議の中で、学校課題と重点取組を協議・共有し、それに基づいたマイプランを各自作成し、取組の推進を図る。	B	・9月に校内学力向上対策研修会を全職員で行い、その研修会をもとに学力向上対策評価シートに示したマイプランの追加・修正の見直しを全職員行った。	A	・一概に成果指標の達成度を評価することは難しい面もあったが、アンケートから全職員が成果指標達成のために努めたという肯定的な回答が得られた。	A	・全職員での取組はよい。 ・学習の進捗状況についても今年度は特に保護者にも知らせていただけると、保護者も安心できる。	学力向上対策コーディネーター	
	○自分の考えを持ち、筋道を立てて書くことができる授業実践	○児童アンケート「自分の考えを筋道を立てて書くことができるようになった」と回答する児童の割合を70%以上にするを目標とする。	・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用した授業設計と授業研究会を行う。その際、自己評価ができるようにチェックシートを活用する。	A	・校内研究を中心に、自分の考えを筋道を立てて書くことができるように、学年に合わせた手立ての工夫を図ってきた。繰り返すことにより、考えを書くことに少しずつ慣れが見られている。	A	・児童アンケートより「自分の考えを筋道を立てて書くことができるようになった」と肯定的な回答をした児童の割合が74%あり、目標を達成することができた。授業づくりのステップ1・2・3を活用した取組がよかったと思われる。	A	・十分に力を付けることができなかった学年でも、今後力を付けていってくれることを期待している。	研究主任	
	○友達と考えを練り合い、高め合うことができる授業実践	○児童アンケート「授業の中で友達と考えを練り合い、高め合うことができた」と回答する児童の割合を70%以上にするを目標とする。	・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用した授業設計と授業研究会を行う。その際、自己評価や他者評価ができるようにチェックシートを活用する。	A	・考えを出すことまではできるが、高め合うまでには、至っていない。教師でまとめてしまう授業になっているところがあるため、児童主体となる授業づくりの工夫が必要である。	B	・児童アンケートより「授業の中で友達と考えを練り合い、高め合うことができた」と肯定的な回答をした児童の割合が76%あり、目標を達成することができた。授業づくりのステップ1・2・3を活用した取組がよかったと思われる。	B	・基本的な生活習慣は、学力だけでなく、全ての項目とつながっていると思う。	研究主任	
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケート「学校が楽しいですか」で、「とてもそう思う」の割合を70%以上とする。 ○保護者アンケート「お子さんは、「学校が楽しい」と感じていると思いますか」で、「とてもそう思う」の割合を60%以上とする。	・児童の実態把握のためのアンケートを定期的に実施し、児童理解に努める。 ・児童の実態に応じた道徳の単元構成や人権・同和教育の計画的な運用を図る。	B	・毎月、児童の実態を把握するためのアンケートを実施している。学校が楽しいという回答は、学級の約70%程度であり、学年が上がるにつれ、理由もいろいろなる要因が重なるため、続けて実態把握とその対応に努めなければならない。	B	・児童アンケートより「学校が楽しい」と肯定的な回答をした割合が85%であったものの、「とてもそう思う」の割合は、44%にとどまった。 ・保護者アンケートより「お子さんは、学校が楽しいと感じている」と肯定的な回答をした割合は、91%であったものの、「とてもそう思う」の割合は、39%にとどまった。	B	・アンケートで困り感が分かった児童について把握できていると思うので、追跡しながら続けて取り組んでいきたい。	道徳主任	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○保護者アンケート「学校は、いじめ防止に向けた取組を適切に実施していると思いますか」で、肯定的回答の割合を75%以上とする。	・いじめアンケートや「月のこころ」を有効に活用し、早期発見と対応を継続して行う。 ・職員間で情報を共有し、チームによる対応を心掛ける。	A	・11月のいじめアンケート(保護者回答)によると、「いじめを受けていない、受けたことはあるが、最近はない」という回答が89%であり、いじめ防止への日頃の取組が成果として表れている。	A	・保護者アンケートより「学校は、いじめ防止に向けた取組を適切に実施していると思う」と肯定的な回答をした割合が87%であり、目標を大きく上回るすることができた。	A	・いじめの追跡調査もしていただいていることがわかった。	人権・同和教育担当	
	○教育相談の充実	○児童アンケートで、「悩みがあったとき、相談する友達や先生がいる」の回答を85%以上にする。	・教育相談コーディネーターが担任と情報交換の機会を増やして、児童理解に努める。 ・気にしたい子供の情報を共有し、児童への関わり方など統一した対応を行うようにする。	B	・児童へのアンケートによると、友達や先生に相談ができている様子は、70%程度にとどまっている。気になる児童については、毎週定例で情報共有を行っている。個々で状況が違うため、必要に応じケース会議を開き、対応を検討している。	B	・児童アンケートより「悩みがあったとき、相談する友達や先生がいる」と肯定的な回答をした児童の割合が83%あり、目標までは届かなかったものの、中間評価に比べるとよくなり、概ね相談できていることがうかがえた。今後も児童理解を共有できる場の設定を行ってきたい。	B	・毎月のアンケートを生かし、悩みがあっても相談できない児童の数がどれくらい減ってきているのかについても、今後しっかり見ていく必要がある。	教育相談担当 特別支援コーディネーター	
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」	①体育的行事に「進んで楽しく参加している」児童の割合を増やす。 ②「早寝・早起き・朝ごはん」を奨励し、保護者アンケートの結果で、肯定的回答の割合を90%以上にする。	・「外遊び」については、体育委員会などの児童会活動を活用し、児童主体で全員が参加できるように働きかける。 ・保健体育や食育の授業を充実し、健康の大切さに改めて気付かせる。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の励行を児童と保護者に引き続き啓発する。	A	・今年度は、体育的行事がほとんど実施できなかった。また、委員会を中心に行う予定ではあったが、その点もできない状況にあった。 ・運動、食事、睡眠の大切さについてアンケートをとったところ、95%以上の児童がその大切さに気付いている。	A	①児童アンケートより「運動や体育に進んで参加できている」と肯定的な回答をした児童は93%であった。 ②児童アンケートより「早寝・早起き・朝ごはん」ができていない児童の割合は85%であった。これらの結果から、望ましい生活習慣と運動習慣の定着化が図られていることがうかがえた。	A	・体力が落ちてきていることが気になる。学校でできることで、体力の向上を図っていただきたい。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」もできていない児童は把握できていると思うので、ぜひ追跡調査や家庭への啓発をお願いしたい。	体育主任 保健主事	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○前例踏襲ではなく、業務遂行の見直しと効果的な業務遂行を工夫する。	・校務分掌を複数の職員で行えるように、教員の配置を工夫する。 ・全職員に「勤務時間に関するガイドライン」の周知を行う。 ・様式、業務データ等の共有化がしやすいように共有フォルダ内の整理を進める。 ・繁忙期とそうではない時期を明確にし、年間を通し、軽重を付けた働き方を行う。	A	・時間外勤務時間は、4月から11月までの8ヶ月間で月平均46時間であり、45時間はオーバーしているものの、時間に対する意識は、年度当初に比べ高くなっている。 ・運動時刻申告制の取組成果が徐々に現れてきている。	A	・時間外勤務時間は、4月から2月までの11ヶ月間で月平均一人当たり39時間であり、中間評価時点よりもさらに減少傾向が見られた。前例踏襲ではなく、随時行事の見直しと効果的な業務遂行ができていることがうかがえる。ただし、時間外削減に努めた職員は、78%にとどまっていることから、個人差がうかがえる。今後いかに全職員に意識付けしていくかが課題として残る。	A	・妥当な取組である。	教頭	
(2)本年度重点的に取り組む各担当業務の情報共有を強化											
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者	
○開かれた学校づくり コミュニティ・スクール	○地域と連携した体験活動の推進 ○積極的な情報発信	○地域の人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を進める。 ○保護者アンケート「学校の教育方針・内容を概ね知っている」の肯定的回答の割合を80%以上にする。	・狭き物体験を中心に、他の体験活動に応じた人材発掘と連携を図る。 ・学校の重点目標の開示をPTA総会の他にも学校のホームページや学校便りなどに知らせる機会を設ける。 ・学校掲示を工夫し、地域や保護者の方の目を引く工夫を行う。	B	・9月18日に第1回の学校運営協議会を行った。学校目標や今年度の学校の取組紹介、委員との意見交換を行う中で、コミュニティスクールとしての現状や課題についていろいろな視点からの意見交換ができた。しかし、コロナ対策のため、今年度は、十分な取組が難しいのが現状である。	B	・保護者アンケートより「学校の教育方針・内容を概ね知っている」の肯定的な回答の割合は76%にとどまり、目標までは至らなかった。今年度は、コロナ対策のため、学校からの情報発信に努めていたが、予定していた行事等ができなかったことや地域人材を生かした十分な体験活動の取組を行うことができなかった影響が考えられる。	B	・先生方や学校での困りごとなども、学校だけではかえり、保護者にも伝えられていくと、協力しながら取り組むことができるのでよい。	教頭 主幹教諭	
○教職員の資質向上 (若手教員の育成)	○若手教員の授業力向上	○児童アンケートで「授業が楽しい」と肯定的回答の割合を85%以上、保護者アンケートで「授業を工夫している」の肯定的回答の割合を80%以上にする。	・若手同士が切磋琢磨できる環境づくりとして、月1回校内で授業づくりの研修会を中堅教諭やベテラン教諭を中心にした「ざっくばらん会」を行う。	A	・校内研究や学年主任等によるOJT、学力向上推進教員や授業協力者等による指導・支援を受けながら、着実に授業力を向上させてきている。授業づくりにより特化した若手教員による自主研修も時間を見計らいながら取り組んでいきたい。	A	・児童アンケートより「授業が楽しく分かりやすい」と肯定的に回答した割合は87%、保護者アンケートで「授業を工夫している」の肯定的回答の割合は87%であった。	A	・経験年数を軽と確実に指導力を付けられていることが分かる。	学力向上対策コーディネーター	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>今年度の重点取組については、概ね達成することができたと言える。次年度は、今年度新しく出てきた課題から以下のような展望が見えてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に係り、汎用的な力としての『読む力』や『自分の考えを持ち、練り合い、よりよい考えを導き出す力』をさらに高めていく。 ・基本的な生活習慣の徹底が図ることで、落ち着いた生活習慣、学力向上を狙うとともに、家庭へ積極的にその啓発を図り、徹底を図る。 ・地域人材を活用した体験活動を推進していき、コミュニティ・スクールを充実させていく。
--------------------	---